

テンペスト

2014.5 ～ 6

The Tempest

中劇場

●前売開始：2014年3月8日（土）

作： ウィリアム・シェイクスピア

翻訳：松岡和子

演出：白井 晃

企画意図

『テンペスト』はシェイクスピアが単独で執筆した最後の戯曲です。ダイナミックな「歴史劇」から始まり、抱腹絶倒「喜劇」、そして人間の存在意義を極限まで突き詰めた重厚な「悲劇」を経て、最後にシェイクスピアが辿り着いた劇世界が、まるで嵐のあとの風のような透明感漂う「ロマンス劇（伝奇劇）」と呼ばれる作品群でした。そこでは運命や大自然の猛威によって引き裂かれた家族の、神の導きによつての再会、憎しみ合った者たちが時の流れによって和解に至る、いわば人間礼賛、人間肯定に満ちたシェイクスピアのメッセージを読み取ることができます。

彼の死後7年経って出版された最初の全集、ファーストフォリオの巻頭を飾ったのもこの戯曲で、同時代人にとって人気の舞台であり、21世紀の今日でも、2012年ロンドンオリンピック、パラリンピックの両開会式のテーマが『テンペスト』であったことは、現代の人々にとってもこの戯曲が新鮮で親しみ易いことの証左にほかなりません。また『ハムレット』『ロミオとジュリエット』と並び、数多く映像化されたこともこの作品の特徴で、多くの演出家、映像作家のイマジネーションを刺激し続けています。

今回、新国立劇場初登場となる『テンペスト』を演出するのは、11年11月、『天守物語』で泉鏡花の耽美世界を見事に現代に甦らせた白井晃。彼がシェイクスピア晩年のこの傑作を、どう舞台化するのか期待が高まります。

作 品

元ミラノ大公プロスペローは12年前、弟アントーニオとナポリ王アロンゾーの謀略によりその地位を追われ、娘ミランダとともに海に流された。やがて漂着した孤島で魔術の修練を積み、空気の精エアリエル、醜い怪物キャリバンを従えて暮らしていた。その島は豊かな自然に恵まれ、妙なる楽の音がこだまする一種の桃源郷であった。そこにアントーニオ、アロンゾー一行の乗った船が差し掛かると、船は突然の嵐に遭遇し、全員命からがら島に上陸する。だがその嵐は一行の到来を知ったプロスペローが魔術で起こした嵐だった……。

演出家からのメッセージ

白井 晃

『テンペスト』はシェイクスピアの最後の作品であり、プロスペローの最後の台詞は、劇世界を締めくくる自らの姿を重ねているといわれている。

私がこの『テンペスト』を通して頭から離れないのは、この作品の舞台となっている孤島の意味である。プロスペローはこの島に、魔術を使って自分を国から追い出した者たちを集める。そして人生の和解と新生を試みる。

私は、この海に浮かぶ島を考える時、旧ソ連邦の映画監督タルコフスキーの『惑星ソラリス』を思い出す。海に覆われた惑星ソラリスは、海そのものが知性を持ち人の思考を浸食する。私は夢想する。この孤島を取り囲む海とは、プロスペローの思考そのものであり、この島とは彼の記憶の集積地であると。

われわれを取り囲む世界とは、とどのつまり自分の脳味噌の中での再構築でしかない。人生の消滅を前にしたプロスペローが、自分の記憶の中に過去の人々を呼び込み、娘に託して世界の再生を願ったとしたら。

今、私が想像するのは、劇場の舞台に小さな海を創り、その上に自分の記憶が詰まった島を浮かべ、それを静かに見下ろすひとりの男の姿である。

テンペスト

ウィリアム・シェイクスピア

William Shakespeare

イギリス、エリザベス朝時代の劇作家、詩人。生涯に 37 本を越える劇作を残し、死後出版された全集ではその作品が歴史劇、悲劇、喜劇に分類された。シェイクスピアが単独で執筆した最後の戯曲、『テンペスト』はその巻頭を飾り、喜劇に分類されているが、晩年の四作品（『ペリクリーズ』『シンペリン』『冬物語』『テンペスト』）はロマンス劇と呼ばれることもある。37 本の戯曲は 21 世紀の今日に至るまで、本国イギリスは言うに及ばず全世界で上演され続けている。我が国でも、明治期に翻案作品が紹介されて以来さまざまな形で上演され、伝統演劇から小劇場の公演まで広範囲に影響を与えている。



白井 晃

Shirai Akira



演出家・俳優。京都府出身。遊●機械／全自動シアター（1983～2002）の活動を経て、現在はストレートプレイから音楽劇、オペラまで幅広く手掛ける。美意識の高い、緻密な舞台演出で定評がある。02、03 年と連続して第 9、10 回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。05 年『偶然の音楽』の脚色に対して湯浅芳子賞、12 年『魔笛』にて第 10 回佐川吉男音楽賞を受賞。近年の主な演出作品に、世田谷パブリックシアター『ガラスの葉』『4four』、まつもと市民芸術館『エドワード・ボンドのリア』『メルセデス・アイス』、バルコ『中国の不思議な役人』『幽霊たち（Ghosts）』、東宝『GOLD ―カミーユとロダン』『幻蝶』、TBS『ジャンヌ・ダルク』、まつもと市民オペラ『魔笛』など。新国立劇場では 05 年『うら騒ぎ／ノイゼズ・オフ』、08 年『混じりあうこと、消えること』、11 年『天守物語』を演出。